

さとにきたら ええやん

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生（脚本）（アドバイザー：岡本・高橋・黒田） 編集：辻澤暁（脚本）（アドバイザー：岡本）
音響構成：渡辺文彦（脚本）（アドバイザー：岡本） 制作協力：神宮良輔（脚本）のり、五十嵐美穂、上田昌亮、宮川謙 制作協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力：小倉忠典
助成：桑文化学文化芸術振興財団 企画：ゴーフォーム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション 制作・配給：ノンファイブ 2015/日本：100分/カラー/16:9/5.1ch/DCP

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場 こどもの里
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー！



いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。「日雇い労働者の街」と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。「さと」と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらも立ち向かう姿を追いました。



わたしはあんたの味方やで! 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたかく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これから歩む私たちに問いかけるものとは――?

「こどもの里」とは?

1977年設立の「こどもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

こどもたちの遊びと学び生活の場です

- 誰でも利用できます。
- こどもたちの遊びの場です。
- お母さん お父さんの休息の場です。
- 学習の場です。
- 生活相談 何でも受け付けます。
- 教育相談 何でもできます。
- いつでも宿泊できます。
- 緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
- 親の暴力にあつたら…
- 家がいやになったら…
- 親子で泊まる場所がなかったら…
- 土・日・祝もあいてます
- 利用料はいりません



さとにきたらええやん

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生 編集：辻井源 音響構成：渡辺丈彦
制作協力：神吉良輔（ふとっちょの木）、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪
特別協力：小谷忠典 助成：文部科学省文化芸術振興費補助金 企画：ガーラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション
製作・配給：ノンドライコ 2015/日本：100分/カラー/16:9 5.1ch DCP

www.sato-eeyan.com

fb.com/satoeeyan777 @sato_eeyann

平成29年5月27日(土) 佐世保市男女共同参画推進センタースピカ 研修室2

3回上映①10:00～/②14:00～/③18:00～ 託児②のみ限定5名 参加費：会員500円、非会員1,000円、当日1,200円

16:00～17:30 クロストーク「まちと子ども～人と人がつながる～」*別紙チラシあり

要事前申し込み

主催：NPO法人ちいきのなかま TEL：090-9498-3608 E-mail：chiikinakama@basil.ocn.ne.jp